

令和3年度 全国学力・学習状況調査結果及び分析・対策（松江市立宍道中学校）

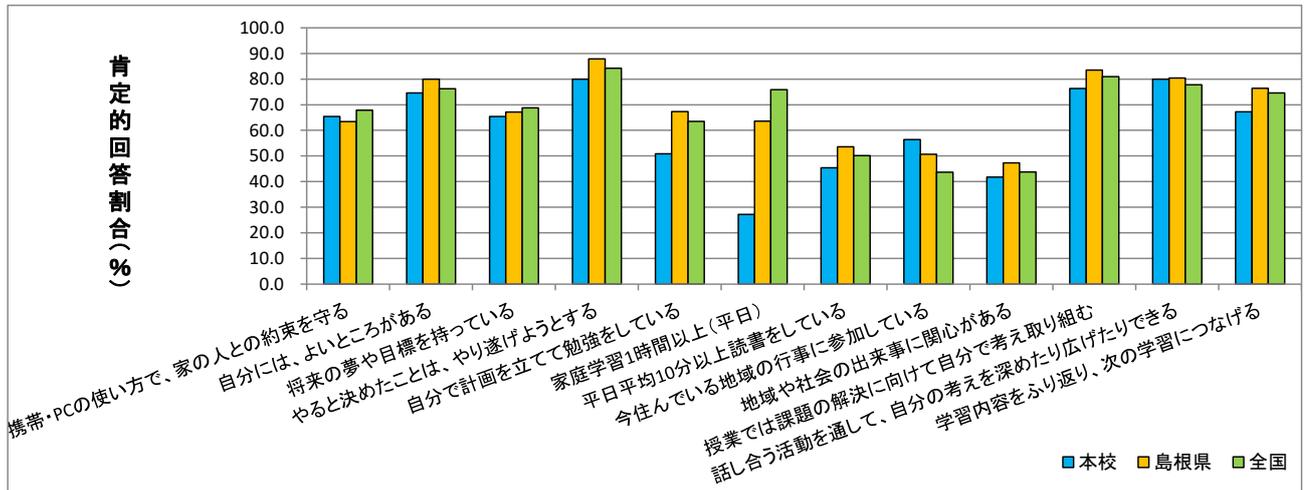
(1) 学力調査結果から見られた傾向

	成果と課題(○: 成果, ●: 課題)	対策
国語	○漢字の読みや話し合いに関する問題の平均正答率が高く、日頃の授業で取り組んできたことが成果として表れている。また、国語の学習の大切さについて肯定的にとらえている生徒が多い。 ●長文の読解や、敬語に関する問題の平均正答率が低く、応用力を要する問題の理解に関しては課題がある。	・課題がある分野については、今後の授業で発展的課題に取り組む機会を増やすとともに、生徒が日頃の読書量を増やしたり、家庭学習の内容の充実を図ることができるようにしていくことが必要である。
数学	○数学が好きな生徒も多いし、ノートをまとめたり、基本的な計算問題を解いたりすることはある程度成果がある。 ●あきらめずに問題に取り組むことや生活に役立つと思う生徒が少ないことが、課題として見られる。	・テストの分析や応用問題を協同して、問題に取り組むなどしてあきらめずに問題を解く姿勢を身に付けさせる。 ・課題が早く終わった生徒には、レベルの高い問題に取り組ませるなどとする。

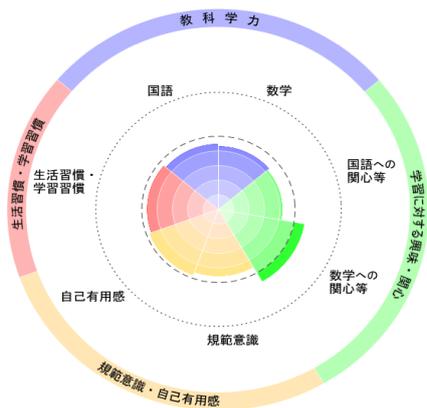
(2) 生活意識調査から見られた傾向

	成果と課題(○: 成果, ●: 課題)	対策
	○『地域行事への参加』は、全国や県の肯定的回答割合よりも高い。これは地域全体を挙げて子供たちを育ててくださっているこの地域の特徴だと考えられる。しかし、地域や社会の出来事に関心がある生徒は少ない。 ●全国・県と比較し家庭学習の時間が極めて少なく、学習内容の定着に課題が残る。	・地域に育てられる子供という立場から、地域を支える人材へと意識を変えていけるようなふるさと教育を展開する。(防災学習を通して地域を見つめる) ・教科ごとに出された課題を短学活で確認し、学習集団としての学級づくりをする。また、保護者と生徒に意識調査の結果を伝え、家庭学習に力を入れるよう促す。

(3) 意識調査(学力との相関が指摘されているものや、教育委員会として注目しているものを挙げています)



(4) 学力調査及び生活意識調査から見られた傾向(破線は全国平均)



(5) その他、今後特に力を入れて取り組むこと

・各教科で反復的な課題や発展的な課題など、授業や宿題として取り組ませることによって基礎的な学力の定着を図る。  
・「学習内容を振り返り、次の学習につなげる」という項目も数値が低いので、各教科で定着が低い内容に関してはもう一度振り返る機会を設けることで定着を図るようにする。

【受検者数】 55名

※欠席等により調査によって受検者数が異なる場合は、最少の受検者数をもって表示。